

---

# ラブカクテルス その17

風雷人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラブカクテルス その17

【NZコード】

N9459C

【作者名】

風雷人

【あらすじ】

今宵は神がかりなカクテルをご用意しました。ご賞味あれ。

いらっしゃいます。  
どうぞこちらへ。

本日はいかがなさいますか？

甘い香りのバイオレットファイズ？

それとも、危険な香りのテキーラサンライズ？  
はたまた、大人の香りのマティニー？

わかりました。本日のスペシャルですね。

少々お待ちください。

本日のカクテルの名前は最高の願いで「ゼロ」です。

じゅうくつひん。

私は散歩をしていた。すると道の真ん中に何かが置いてあるのに気が付いた。  
なんだらう？

もう少し近づいて見ると、それが石であることが分かった。  
なんでこんなところに石が？

覗き込んだ瞬間、私は悲鳴を挙げて、その石を蹴り上げた。  
ちょうど私の反対側の死角になっていたところに白い蛇がいたから  
だった。

私が石を蹴り飛ばすと白い蛇はため息をついで、私の前に出て來た。  
私はまた悲鳴を挙げて、そこから逃げようとするが、待ちなさいつ  
と、声がした。

えつ、私はその声に思わず立ち止まり、振り返るとそこには、な、な、なんとさつきの白い蛇が喋っていたのだった。

その白い蛇は私に頭をペコリと下げるなど、また喋り出した。

お嬢さん、助けいただいてありがとうございます。いやいや痛かつたですよ。あんな大きな石が蛇の上に乗っていていらっしゃる。それはそれはひどい話だとは思いませんか？

蛇は意外とやかましかつた。

私はナゼ蛇が喋っているのか聞くのを忘れるくらいに呆れた。

蛇は首を傾げた私に、得意気な顔してまたベラベラと話し始めた。  
お嬢さん。蛇が喋っているから開いた口が塞がらないみたいですね。  
でも、こう見えて私はこの辺じやちょっと有名な神様なのですよ。  
そういうえ、この先を行つた丘の上に古い神社があつて、そこの神  
社の名前が白蛇神社とかいうことを、ふと、思い出した。

あそここの神社は昔々、大昔にこの辺が大干ばつになつたことがあり、  
困つたお百姓さんたちが山にいるという伝説の白い蛇を探して神頼  
みをした。

白い蛇は神社を建てて白蛇を奉り、末代まで崇めるならと雨を降ら  
したそうだ。

そんな言い伝えを思い出したが、このおかしな白蛇がどうなのだろ  
うか？

白い蛇は赤い舌をペロペロさせて私に言った。

丁度この辺の神の集まりがあつたんですけど、帰り道にいきなり落石  
にやられて困つてたんですね。助かった助かつた。  
神でも不運はあるのかと、私は複雑な気持ちになつた。

白い蛇は、助けてくれたお礼に何か一つ願いを叶えてやると言つて  
きた。

私は、えつ、本当に。と目を輝かすと、白い蛇は舌をまた、誇らし  
気にペロペロさせて、神は嘘付かないと言つた。

私は考えた。

何を頼もうか。

白い蛇は言つ。雨か？それともお金か？地位や名誉なんかも大丈夫  
だし、ほら、永遠の若さや、世界一の美貌とか、なんでもいいぞ。

横でうるさく急かしてくる。

私はしばらく悩んで閃いた。

その様子を見て白い蛇も身を乗り出す。

私は本当になんでもいいのかと再度確認すると、白い蛇はぐびこと言つた。

私はしたい事がいっぱいあって決められない。だから私の願いは、願い事を百回叶えてほしい。と言つた。

白い蛇はペロペロさせていた舌を止めて、固まつた。

そして、それは駄目と言いかけたところを、嘘付くの?と抑えつけると、白い蛇はトグロを巻いてうなだれた。

そして、お譲さん、あんたつてずるい。

と言つてまた舌をペロペロさせたのであった。

それから私の傍にはいつも白い蛇がいるよくなつた。だつて百回の願い事を叶えるのは、そんな直ぐにできる事じゃない。

とつあえず、私は試しに一つ願い事を思い付き、白い蛇に言つた。ねえ、白い蛇の神様、お願ひ事をしたいのだけれど。

白い蛇はいやいや近寄ってきて何だい?と言つた。

ふてぶてしいその態度にカチンときたが、一応神様だ。私は自分を抑えた。

私は、小さい頃からの夢があつた。

白い蛇の神様、私、学校のプールの中をね、ゼリーでいっぱいに埋めてみたいんだけれど。

白い蛇はまた舌のペロペロを止めた。

そして私にゼリーって何だい?と聞いてきた。

私はため息を付いた。神のクセにそんな事もしないのか。

私は白い蛇の神様に少し待つように言つて、ロンギニでお気に入りのコーヒーゼリーを買って、一口食わせてみた。すると、白い蛇の神様は飛び上がって喜んだ。うまい。

白い蛇の神様は、私に着いてくるよつた言つて、一四四一四四と小学校に向かつた。

小学校のプールに着くと、白い蛇の神様は、いきなり力み出した。すると、なんと白い蛇の神様は、柄が白い蛇の杖になつた。そして私にその杖を空に向かつて三回振つて、願い事を叫ぶように言った。私は言う通りにやつてみた。すると、空から雷が光り、目の前のプールに落ちてきた。

私は驚き、身を縮めた。

そして、目を恐る恐る開けてみると、なんとプールはコービーゼリーダつた。

私はまた驚いた。凄い。

白い蛇の神様はいつの間にか杖から蛇に戻つていて、背筋をピンと張つて誇ら気に言った。

どうだい、大したものでしよう。

私は感激し、礼を言うと同時にゼリーのプールに飛び込んだ。

その上ときたら、想像通りのブルンブルンで、なにしろよく滑つた。私は仰向けになつて、泳ぐ様に体を滑らせたり、その上で跳ねたりと、まるで子供みたいにハシャいだ。

プールサイドでそれを見ている白い蛇の神様は、舌をペロペロさせていたので、一緒に来るよう誘つた。

白い蛇の神様はまんざらでもないらしく、楽し氣に一四四一四四とゼリーの上を滑つてゐる。

そして、いよいよ一人?はゼリーを食べることにしたのである。

二人とも飛び込み台に立つて、ヨーヨードゼリーに頭から飛び込み、ガブガブとプールいっぱいのコービーゼリーを食べた。

うまかつた。最高だ。

私は体を大の字にして、白い蛇の神様は一文字にして、プールに寝転び、その幸せを実感した。

私は、白い蛇の神様にちょっととしたあだ名を考えた。

それがペロちゃんだつた。

蛇などあまり好きではなかつた。むしろ苦手だつたが、白い蛇の神様のおかげで、舌をペロペロさせる仕草がとても可愛いらしく思えるようになった。

そこで、私は白い蛇の神様にペロと呼んでもいいかと聞くと、罰当たりだなー、全く。と言しながら笑っていたので、それ以来白い蛇の神様はペロちゃんになつた。

それからも、私はペロちゃんと一緒にいろいろな事をした。

ある時は各地の遊園地にあるジンギツトースターのレールを繋ぎ合わせて、グルグル回るコーヒーカップで滑つてみたり、またある時は雲に乗つて世界の空を散歩したり、またまたある時は、水の上を走る車で太平洋をドライブしたり、他に、透明になつて各地の秘密基地を覗いてみたり、タイムマシンに乗つて時間の旅をしたり、小さくなつて人の体の中を見て廻つたり、薄くなつて凧になつてみたり、丸くなつて山の天辺から転がつてみたり。

それから、欲しい物も色々手に入れた。

お菓子でできる家や、色々なお話の王子様。世界一大きいダイヤなどの宝石色々。

どれもこれも楽しい事ばかりだつた。

そしていよいよ百回の願い事の最後の一回になつた。

私はいままでいろいろやつてきた事を思い出した。

どれも楽しかつた。

私はペロちゃんに最後のお願いを言つた。

それは

ねえ、ペロちゃん。私の記憶をペロちゃんに呑み込んだ前に戻してくれない?

だつて、私は欲しいものがなんでも手に入つてしまつたし、したい

と思ったことは全てやってしまって、これから的人生がつまらな過ぎるもの。

だから、また私は私で人生を楽しみたいの。

それを聞いたペロちゃんはキヨトンとした顔を少し緩ませて笑った。そして、私にとても楽しかったよと言つて、私を元の私に戻した。

私は散歩をしていた。道の真ん中に石が落ちていた。

なんだろ? 看いて見ると、なんのことはないただの石だった。

しかし、ふとその石を見てその先にある白蛇神社にお参りに行きたくなつた。

なぜだろ?

そつ考えながらも足は神社に向かつていたのだった。

おしまい。

いかがでしたか?

今日のオススメのカクテルの味は。

またのご来店、心よりお待ち申し上げております。では。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9459c/>

---

ラブカクテルス その17

2010年10月26日03時34分発行